

＜株式会社エフエム東京 第 519 回放送番組審議会＞

1. 開催年月日：令和 7 年 6 月 3 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 11 階大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（6 名）

ロバート キャンベル委員長（レポート）	佐々木 俊 尚	委員長代理	
松 田 紀 子	委員長代理	山 口 真 由	委員
柴 崎 友 香	委員	福 里 真 一	委員

◇欠席委員（0 名）

◇社側出席者（6 名）

唐島 夏生	代表取締役社長執行役員
内藤 博志	取締役執行役員コンテンツ事業局長
宮野 潤一	執行役員編成制作局長
砂井 博文	編成制作局制作部長
蘭 有紀子	編成制作局編成部長
高橋 智彦	編成制作局制作部プロデューサー

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 宮野放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴 （58 分）
「JFN スペシャル 2025 山下達郎 50th アニバーサリー SUGAR BABE
『SONGS』～50 年後の僕たちは～ supported by 楽天カード」
2025 年 5 月 5 日（月・祝） 15:00～17:00 放送 ダイジェスト

《議事内容》

議題 1:最近の活動について

■ 2025 年 4 月度 聴取率調査結果

ビデオリサーチ 2025 年 4 月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査（2025 年 4 月 21 日～27 日）において、当社主要 3 区分の結果は以下の通りとなりました。

- 男女 18～49 歳：在京首位（単独）※22 年 2 月以来「20 期連続」首位
- 男女 12～59 歳：在京 2 位
- 男女 12～69 歳：在京首位（同率）※22 年 4 月以来「19 期連続」首位

【男女 18～49 歳】（当社コアターゲット）

	全局	TFM	J-WAVE	LF	TBS	QR
今回（4 月度）	2.7	0.4	0.3	0.3	0.2	0.1
前回（2 月度）	3.1	0.5	0.4	0.4	0.3	0.1

【男女 12～59 歳】

	全局	TFM	J-WAVE	LF	TBS	QR
今回（4 月度）	3.3	0.4	0.5	0.4	0.3	0.2
前回（2 月度）	3.6	0.6	0.4	0.5	0.3	0.2

【男女 12～69 歳】（個人全体）

	全局	TFM	J-WAVE	LF	TBS	QR
今回（4 月度）	3.9	0.5	0.5	0.5	0.4	0.3
前回（2 月度）	4.1	0.6	0.5	0.6	0.4	0.3

今回 4 月度は前回比で、主に 20 代とラジオリスナーのボリューム層である 50 代・60 代のスコアが下降した影響で全体のスコアを落としましたが、コアターゲットである 30 代・40 代では在京トップのスコアを獲得しました。さらに今回のスコア減少の要因となった聴取分数の改善、内容面のブラッシュアップに努め、次回 6 月度調査に向けて準備を進めてまいります。

議題 2：番組視聴

【番組名】

「JFN スペシャル 2025 山下達郎 50th アニバーサリー SUGAR BABE

『SONGS』～50 年後の僕たちは～ supported by 楽天カード」

2025 年 5 月 5 日（月・祝） 15:00～17:00 放送

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、5 月 5 日（月・祝）15 時～17 時に放送した特別番組「JFN スペシャル 2025 山下達郎 50th アニバーサリー SUGAR BABE『SONGS』～50 年後の僕たちは～ supported by 楽天カード」です。

1975 年 4 月 25 日にシュガー・ベイブのアルバム『SONGS』が発売されてから今年で 50 年。そして、「山下達郎のサンデー・ソングブック」（TOKYO FM/JFN38 局ネット）のパーソナリティで、シュガー・ベイブを率いた山下達郎の音楽生活 50 周年の年。移り変わる時代の中で、シュガー・ベイブが紡いだ楽曲は、リスナーの人生にどのように寄り添い、どのように心に鳴り響いてきたのか。この番組は、『SONGS』の魅力を、それぞれのリスナーのストーリーを通して感じていただく、オムニバスのラジオドラマです。

「山下達郎のサンデー・ソングブック」で 2025 年 2 月から 3 月にかけて全国のリスナーから募集されたエピソードに着想を得て、4 話のオムニバスドラマとそれを繋ぐ男女のストーリーで構成。劇中で流れるラジオ番組「SUGAR BABE 特別企画」では山下達郎本人がパーソナリティを務めている他、当時、シュガー・ベイブのメンバーだった大貫妙子がナレーションを担当。そして、生田絵梨花、一ノ瀬颯、長塚圭史、土岐麻子、木村多江、他の豪華キャスト陣が声優を務め、ラジオドラマを彩りました。



【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側意見）

○TOKYO FM は、キャリアの長いアーティストの特集番組を過去にも多数制作していて、リスナーにとって彼らの音楽がどう存在したかというエピソード、関係者の話、専門家による音楽的な解説などをバランスよく構成しているものが多かったが、ラジオドラマやラジオ番組を活かした本人の声で構成しているところがとても新鮮だった。

○山下達郎氏の話の中で、ある曲が、その曲を聴いた方の生活の一部になったらその音楽はもう聴いた方のものだということをおっしゃっていて、音楽のあり方を象徴するいい話だと思った。欲を言えば、もう少しそのような話をたくさん聴きたかった。ナレーションで大貫妙子氏が参加していたが、大貫氏にも当時の話やエピソードを聴いてみたかった。

○すごく力を入れてラジオドラマの部分を作っているのが伝わってきたが、構成が複雑で、聴いていて混乱したり、分かりにくい部分があった。

○リスナーの生の声で、「自分はこの時にこの曲を聴いて、すごく大切な思い出になっている」といったエピソードを聴いて、それがとてもぐっとくる。ただ、それがラジオドラマに落とし込まれた時に、ストーリーが目立ってしまって、曲とリスナーの結びつきが弱くなってしまっていたように思う。

○ドラマの設定上の時代考証が気になった。近い過去というのは意外と難しく、例えば、クレームという言葉が出てきたが、多分この時代ではまだ「苦情」だったのではないかと思う。また、細かいことだが、娘さんが発見したお母さんの手紙について、お母さんが持っているのはお母さん宛に受け取った手紙だと思うが、紹介された内容が、女性が男性に書いたような口調になっていて、お母さんが出したものをお母さんが持っているのは少し不自然だと感じた。そういう部分もこのドラマを分かりにくくしている一因になっているように思う。

○何度か聴き返したが、構成が分かりにくかった。ドライブデートをしている 2 人が現代の若者なのか、過去の人なのか分からないまま聴いて、最後の最後で、現代の若者と分かった。時系列が分かりにくくて混乱してしまった。もう少し 1 つ 1 つのドラマが短い方が良かったかもしれない。

○この 4 つのドラマが関係があると思わずに、全く別物だと思いながら聴いたので、それぞれのエピソードを楽しめた。50 年前に「SONGS」が出て、楽曲が今もこんなに聴かれて、素晴らしいと思う。音楽の普遍性というこのバンドの先見性。

50 年前は全く評価されず、パチンコ屋で聞いたくらいだ、という話が印象に残った。

○ラジオの中のラジオという構成は抵抗なく聴けて、良い番組だと思った。年代や世代、国籍など幅広い方が登場していて、バランスがいいと思った反面、女性の声の演技が少し過剰に感じられて、声だけで少女やお母さんを表すのはとても難しいことなのだと思った。

○TOKYO FM の特別番組は、アーティストや音楽へのリスペクトを込めた番組が多い印象で、特に、山下達郎氏のような TOKYO FM を代表する番組を長く担当されている方へリスペクトを込めた特別番組を制作している姿勢が素晴らしいと思う。委員のみなさんからあった、ラジオドラマが分かりにくくなっていた部分は、込めた想いが積み重なり、50 年を詰め込もうとして、その結果盛りだくさんになってこうなったのだろう、と思って、それはそれでありなのではないかと私は思った。ただ、個人的に欲をいえば、シンプルで良かったので、山下達郎氏の「SONGS」に込めた想いを 1 曲 1 曲聴いてみたかったというのは正直ある。

○CM のトレンドでは、例えばある飲料を飲ませるために無理やり作ったストーリーなどはウケないのが今の時代。なるべくリアルをそのままトレースしたほうが受け入れられる。ラジオドラマにも近いものを感じたので、どこまで作り込むか、リアルから離れるか、というのは重要なポイントかと思う。

○緻密な構成でとてもいい番組だと思った。海外のドキュメンタリーは、単なるドキュメンタリーではなく、ドラマやアニメ、音楽を入れて構成するのがトレンド。いろいろな要素を入れ込むので、全体の構成は複雑になるんだけど、見終わった後に「SONGS」の良さがじわっと伝わってくるという意味では成功しているのではないかと思う。

○リアルタイムでこの頃に学生時代を過ごしたが、70 年代はアウトサイダー、アウトローが大変好まれた時代。例えば、少し前に話題になった「新幹線大爆破」、現代版の主人公は車掌で、働く職員側にフォーカスされているが、もともと昭和に作られたもののリブート版で、1975 年に公開された「新幹線大爆破」の主人公は犯人で、工場が潰れて露頭に迷ったおじさんだった。犯人を手伝ったのも学生運動くずれや、集団就職で状況をした若者。社会のアウトサイダー的人物にフォーカスが当たっていた、そんな時代だった。そう考えると、この同じ年に作られた「SONGS」がやっぱり異様だったのが本当に分かる。本当によくこんな音楽が作れたなと感心する。一方で「当時は全く売れなかった」という時代の空気感も良く分かる。80 年代に入ると一気に空気感が変わって、70 年代と 80 年代の空気感の変化は興味深いので、この辺りを番組に盛り込んだら面白いのではないかと思う。

いずれにせよ時代とともに音楽が変わっていくが、今「SONGS」を聴くとすごく普遍的な音楽に聴こえて、昔も今も全く変わっていない。全く変わっていないで、山下達郎すごい！と思いつつ、聴く側の我々は随分変わってきたと感じる。音楽と時代をテーマにした番組もぜひ制作して欲しいと期待する。

■貴重なご意見をありがとうございました。今後の参考としたい。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「ドライバーズインフォ」

6月29日(日) 5:55～6:00 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <https://www.tfm.co.jp/>